

D i L T S J A P A N O2リプレイサーをお買い上げいただきありがとうございます。

アドレスV125K9モデル以降はO2センサーによるフィードバック補正エリア内では、サブコンで燃料を増量しても、フィードバック補正によりある程度元に戻されてしまいます。

O2リプレイサーは内蔵されたマイクロコンピュータでインジェクション車のO2フィードバック(クローズドループ)機能を停止し、ECUによるO2センサー信号での燃料補正をカットします。

これにより、全エンジン回転域/全アクセル開度域での燃料増量に対しO2センサー補正が入らなくなり、サブコン等での増量が補正されてしまう事なく数値通りの燃量セッティングがエンジン回転全域で行えます。

O2リプレイサーは、ほぼノーマル時のO2センサーが付いている状態と同じ程度の噴射量にしますので、取り付け後も燃調が極端に濃くなる事はありません。

ENIGMA(サブコン)は減量できない為、濃すぎた場合は修正できません。ディスチャージインジェクターのV125を燃調する時には、有利になります。

この取扱説明書はO2リプレイサーの取り付け方や注意点について解説しています。

本書をよくご理解の上、正しくご使用ください。

※ O2センサーのフィードバック機能/領域に関しましてはメーカーや車種別に違います
アドレスV125の場合は下記に記載しております。セッティングの参考にして下さい。

アドレス125などはマフラーからO2センサーを取り外すと、O2信号がECUに入力されなくなる為、アイドリングがメーカー値の1600回転より上昇したり、不安定になったり吹き下がりが鈍くなったりと色々な症状がでます。

O2リプレイサーを装着するとアイドリングを1600回転近辺に自動で補正します。

(メーカーや車種ごとに設定アイドリング回転数は違います)

また「アイドリング微調整ダイヤル」を装備しており、バイクの個体差によるアイドリングの高め/低めを任意に微調整出来ます。詳しい説明は説明書の後半に記しています。

擬似信号発振器で「擬似O2センサー信号」を発生してる物と違いO2リプレイサーはエンジン回転数を監視し、アイドリング時などは独自のプログラムにより、毎回計算された擬似信号を発生するため、発振器信号と違い、よりリアルに毎回同じパターンの信号が出ません。簡易作動確認LEDでアイドリング域で作動しているのが視覚的に確認できます。

改造されていないノーマル車に取り付けた場合でも、O2センサーからのフィードバック機能を停止しフィードバックエリア内の空燃費を適正化し、中低速域のパワー/トルク感を向上させます。

ボアアップ車やBIGインジェクター装着車の場合でも、O2リプレイサーはアイドリング回転近辺では、独自の機構によりアイドリングを自動で安定させようとしています

しかし、サブコン等により変更された「空燃比」が故意に濃すぎる/または薄すぎる場合は、

アイドリング安定化プログラムは働きません。アイドリング回転でもECUのO2補正はカットされますのでサブコン等で増量した燃料なりの結果になります(アイドリングが不安定になります)

この場合、アイドリング時の空燃比が常識の範囲内(たとえばノーマル車両等と同じ位の空燃比の意味)に再度セッティングし直せばアイドリングは安定してきます。

注:インジェクターの大きさや燃圧、その他パーツにより、結果は違います

改造車の場合はケースバイケースとなる場合があり、どんな改造車でもアイドリングを安定させるというものではありません。あくまでも調整の一助とお考え下さい。

○2リプレイサーは純正の○2センサーを取り外しません。

「○2センサーそのものを取り外したい」場合は専用の別売のブラインドカプラーセットを使用して○2センサーをカプラーから取り外し、ブラインドカプラーで蓋をして下さい。

ブラインドカプラーは取り外したカプラーの車体側に埃や雨水が入らないように蓋をして不慮のトラブルを未然に防ぎます。またヒーター部が取り外された事をECUに感知されないようにします。

マフラーの穴には専用ボルト(アルミパッキン付き)を使いセンサー穴を塞ぎます。

注意：○2リプレイサーを取り付けずに、ブラインドカプラーセットだけを使った場合は、○2センサー信号が全くECUに入力されないため、エンジンの状況または運転の仕方によって空燃比補正が変化し、アイドリングが上昇したり、吹き下がりが悪くなったりと、色々な症状がでます。基本的にはただ取り外した時と同じ様なものです。

状況によってはFIランプが点灯する事もあります。

ブラインドカプラーセットは、○2リプレイサーとの同時装着専用の部品です。

アドレスV125

○2センサーフィードバック機能(クローズドループ)について

アドレスV125の○2フィードバック範囲は全域ではなく、エンジン回転とアクセル開度により補正がある領域と初めから補正が入らない領域があります。

アドレスV125の具体的な補正範囲の回転数/アクセル開度は下記の通りです。

アイドリング～2000回転まではアクセル開度15%まで(それ以上は補正無し)
2000～3000回転はアクセル開度25%まで(それ以上は補正無し)
3000～4000回転はアクセル開度30%まで(それ以上は補正無し)
4000～4500回転はアクセル開度35%まで(それ以上は補正無し)
4500～5000回転はアクセル開度40%まで(それ以上は補正無し)
5000～6000回転はアクセル開度45%まで(それ以上は補正無し)
6000～6500回転はアクセル開度40%まで(それ以上は補正無し)
6500回転以上は無し

上記がアドレスV125のクローズドループの範囲です。この範囲内では、ENIGMA等で増量しても、○2フィードバックにより、ある程度補正され元に戻されてしまいます。

上記以外の領域は最初からフィードバック補正がありません。

つまり最初からENIGMA等で増量しても補正はかからないエリアです。

○2リプレイサーは補正される領域で増量しても「補正」されて元に戻されてしまわないようにしますが、基本的には補正機能を停止させてるので、噴射量は今までフィードバックの影響を受けていた数値になります。この為、もともと補正の無かった領域との燃調MAP境界線に空燃比の変化のような感じが出ることがあります。こうした現象は空燃比計測機の故障などではなく、こういう仕組みと言う事を考えてセッティングを進めて下さい。

◆◆◆◆◆◆◆◆ 警告！！必ず読んで下さい！ ◆◆◆◆◆◆◆◆

本製品は競技/レース等での使用を目的に製作されたものです。

使用に当たっては取り付けから使用まで、すべてお客様の自己責任になります。

当社は一切の責任を持ちません。使い方を間違えるとエンジンに重大なダメージがあります。

取り付け等を行った第三者による行為、その他の事故に関してや、お客様の故意または過失、誤用により生じた障害に関して当社は一切の責任を持ちません。

本製品の使用、または使用不能から生じる付随的な障害に関して当社は一切の責任を持ちません。

○2リプレイサーの取り付け方

取り付け作業は安全な場所で正しく行って下さい。基本的なアドレスV125の整備知識が必要です。サービスマニュアルに従ってECUと配線が作業できるように外装などを取り外して下さい。ノーマル車両の前面カウルを取り外すと正面やや右下にECUが差し込まれて固定されています。

ECUに繋がってる26ピンコネクターを外し配線を加工して○2リプレイサーを割り込みさせて下さい。○2リプレイサーはECUの近くに取り付けてください。

コネクター側の配線に○2リプレイサー配線を割り込み接続及び切断して接続します。

(割り込み接続とはノーマルの配線を切断せずに分岐する様に接続する事です)

割り込み配線接続はエレクトロタップを使用しないで下さい。接続トラブルが多く

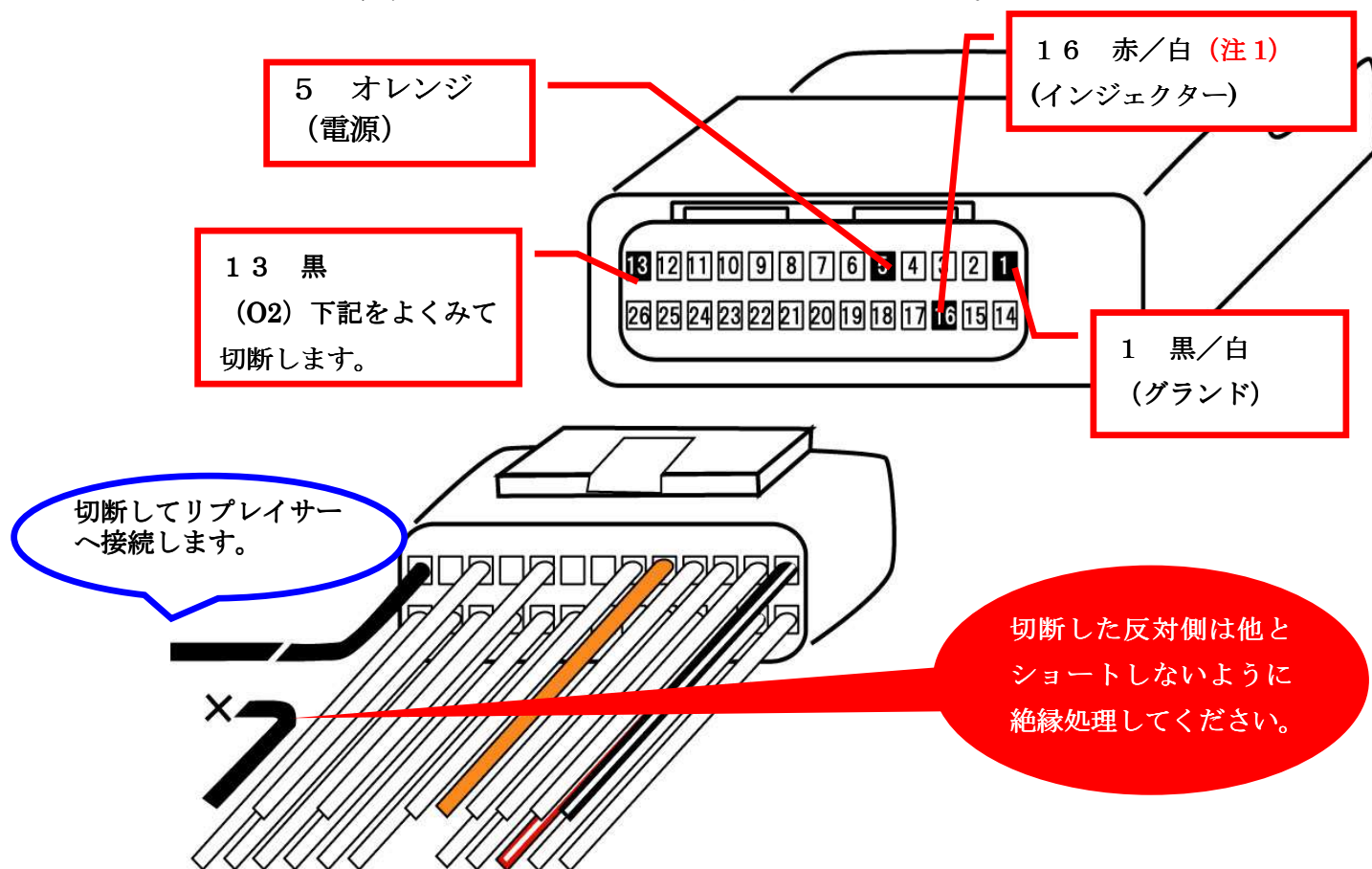
○2リプレイサーの動作に問題が起こります。

(ハンダ付け等での作業が信頼性が向上します。)

基本的に○2リプレイサーから出ている4本の配線色と接続する車両の配線色は同じ色になっています。下記の図を良く見て正しく接続して下さい。

※ 本機は日常生活防水仕様です。裏面の回転微調整穴に差し込んでいる蓋から雨水等が入る事もありますので、水没したり雨水のかからない所へ取り付けてください。

● 下図を良く見て配線位置など間違わないように作業してください。

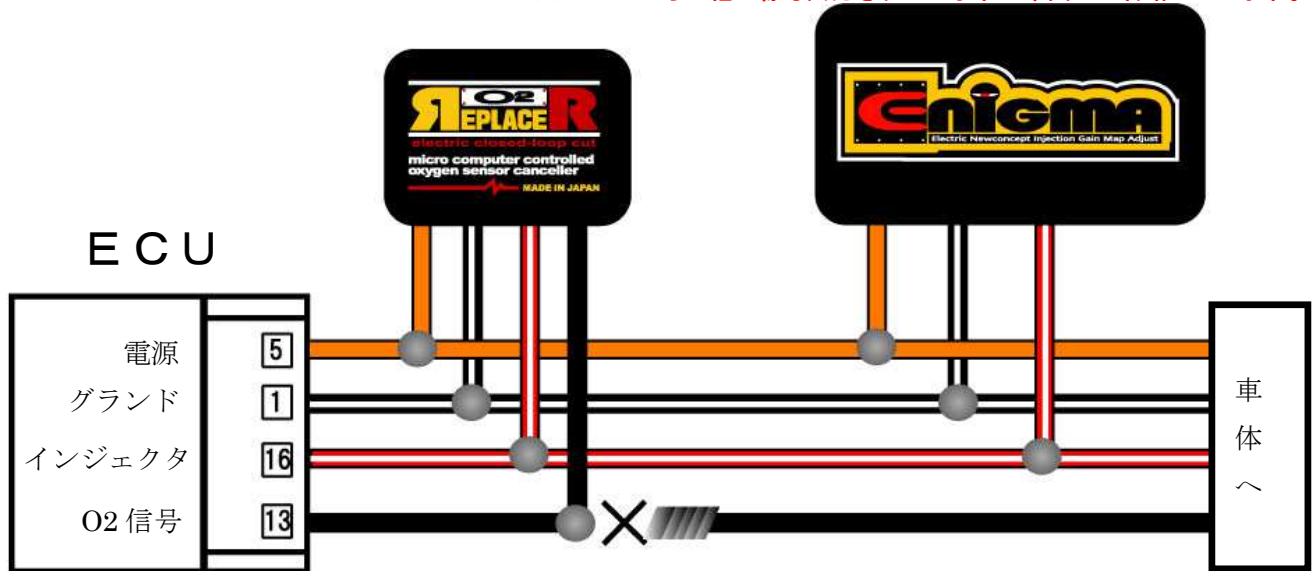


■ ECU端子で繋ぐのは1、5、13、16の4箇所です。上図で良くご確認下さい

■ O2センサーへ接続する線(黒)は、切断してECU側とO2リプレイサーの黒線を接続してください。切断した車体側は他の線やフレームとショートしないよう絶縁処理してください。

■ 注1) ECU端子16番の赤/白(インジェクター信号線)は年式によっては白/青の場合があります。この場合でも必ず16番端子に割り込み接続して下さい。

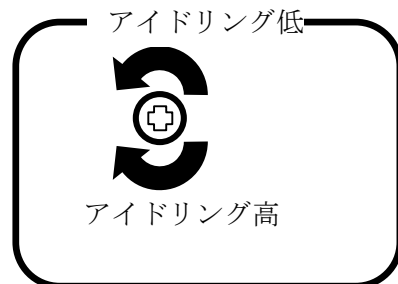
※ENIGMA からは他の線も出力されていますが本図では省略しています。



※本図では判りやすくするため別々の部分から取り出す表記にしていますが、サブコンの割り込み接続部分と同じ場所から配線して問題ありません。

アイドリング微調整

裏面の蓋を取り外します。中にあるボリュームを回すことで、アイドリング回転数を微調整できます。



ボリュームは精密ドライバーなどで回してください。

ボリュームがセンターの時にメーカー指定の約1600回転にアイドリングするように調整していきます。その状態からボリュームを時計方向へ回すと、アイドリングは高くなります。

反対方向へ回すとアイドリングは下がる等微調整ができます。

ボリュームを無理に回すと故障の原因となりますので、ご注意ください。

※ あくまでもバイク毎の個体差を調整するためのものです。任意にアイドリングを上下するものではありません。
O2信号の値からアイドリングを調整しようとするものなので、アイドルスクリューやIACバルブによるアイドリング回転数調整と違い非常にゆっくりと反応し、回転数が変化します。また回転数の変化は非常に小さいためデジタル式タコメータ等にてご確認ください。

始動時はエンジンが温まるまで、バイク側が自動的にアイドリング回転数を上昇させます。

エンジン温度が十分高くなり通常のアイドリングになったときO2リプレイサーがアイドリングを認識し、内部のLEDが点灯します。動作の確認は裏面の蓋を外して内部LEDが点灯している事で確認できます。

(動作確認LEDは2000回転以下のアイドリング時のみ点灯します。)

調整/確認が終わりましたら、蓋をしっかりと閉め雨水等がかからないようにしてください。